The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	第一次新田文庫暫定目録(続)
Author(s)	池田, 光子
Citation	懐徳堂センター報. 2005, 2005, p. 7-25
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/24377
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

第一次新田文庫暫定目録（続）

池　田　光　子

【はじめに】

本稿は、「第一次新田文庫暫定目録」（『懐徳堂センター報』２００４、懐徳堂センター、2004年）の続編である。前稿は書架に配架されている資料を対象としたが、今回は主に器物棚に配架されている資料を対象とした。また、前稿で遺漏していた資料も数点併せて掲載した。

新田文庫の説明と、懐徳堂文庫に所蔵されるまでの経緯については、前稿に述べてあるので、ここでは概略のみを繰り返しておく。新田文庫とは、新田家より大阪大学に寄贈された新田家及び中井家伝来の遺物・書籍の総称である。これらは、懐徳堂で歴代学主を務めた中井家の子孫である中井木菟麻呂（つぐまろ）の旧蔵である。木菟麻呂は数回に分けて、中井家伝来の懐徳堂に関係する資料や自ら蒐集していた懐徳堂関係資料を重建懐徳堂に寄付した。しかし、それは木菟麻呂所有の全資料では無かった。残された資料は妹であり養子でもあった中井終子へと伝えられ、更に終子の養子となった新田和子に伝えられた。そして新田和子から大阪大学に寄付されたのが、通称「新田文庫」である。

寄付は、昭和54年(1979)と昭和58年(1983)との二回に分けて行われた。昭和54年に寄付された資料を「第一次新田文庫」、同58年に寄付された資料を「第二次新田文庫」と分けて称することもある。本稿で取り扱うのは、前稿に引き続き「第一次新田文庫」である。

前稿と同様、本稿の目的もまた、目録未作成である新田文庫の概略を示すことにある。新田文庫は懐徳堂研究をすすめる上で不可欠の資料を多数所蔵しており、目録作成は今後の懐徳堂研究の上で急務と言えよう。よって、本稿は、資料の存在を示すことに中心を置き、その詳細は省略してある。

具体的には、まず、その大きさを記載するまで及んでいない。受け入れ番号も調査時点で未詳のものについては、記載していない。ちなみに、新田文庫のほとんどの器物に、理由は現時点では未詳であるが、受け入れ番号は付されていない。

次に、資料名については、箱書きなどにて名称が示されているものについてはその名称に従い、名称が示されていないものについては、器物そのものの形状を資料名とした。例えば筆であれば、「毛筆」、という具合である。また、懐徳堂センター所蔵の目録カード(平成16年まで大阪大学文学部合同研究室蔵)を参照して資料名を採ったものもある。この目録カードは、作成年代こそ不明であるが、資料受け入れ時に比較的近い時代に作成されたものと推測される。

今回の目録制作で気が付いたことを記しておく。新田文庫の資料は器物棚と書架とに分けて配架されているが、配架については、一部疑問の残る点がある。より適切な配架は今後の

課題であろう。また、劣化が進んだ資料は少なくない。保存体制のあり方と修繕も、今後の課題であろう。

第一次新田文庫の目録については、本稿で一応の完結となるが、新田文庫独自の番号であるE番号を順に追っていくと、番号が一部欠落していることが分かる。はじめから資料が存在していなかった可能性も考えられるが、前述した懐徳堂センター所蔵の新田文庫目録カードを確認すると、一部筆者が見つけ至らなかった資料も、カード作成時には存在していたことが分かる。よって、欠落している資料番号について、末尾にまとめて記し、目録カードから資料名だけでも分かるものについては、それも付記する。今後、これらの資料が発見された場合には、補足という形で報告したいと思う。

前稿と本稿との調査時点で確認された資料の中には、既に調査・研究対象として取り上げられている資料も含まれている。既に指摘されている貴重資料以外にも、詳細な調査を必要とする資料が、新田文庫には、数多く存在している。前稿でも数点を指摘したが、本稿でも追加として重要と思われる資料数点を以下に列挙しておく。

〔懐徳堂関連〕

①E3博山香炉/E11陶製天楽楼酔歌器（西村天囚『懐徳堂考』（懐徳堂記念会、上巻は明治43年(1910)、下巻は明治44年(1911)発行）「履軒の工技」に、この二つの器物の記述がみられる。）

②E32天体図解附天体小図（履軒自筆とされる資料。履軒が自然科学に興味を持っていたことを示す資料である。）

③E303画觴（中井履軒自筆と思われる本草書。E313『左九羅帖』が本草について絵で説明したのに対し、本書は主に文章で説明がされている。『懐徳堂事典』（湯浅邦弘編著、多さ医科大学出版会、2001年）によると、本書は『左九羅帖』の附録であったが、佚したとされている。しかし、今回の調査により、新田文庫に蒐集されていることが明かになった。）

④E324甃庵先生母堂書簡（懐徳堂第二代学主である中井甃庵とその母である中井はやとの書簡。）

〔木菟麻呂・終子関連〕

①E21中井木菟麻呂及終子宛書簡/E25中井終子宛葉書/E26墨跡帖/E37中井木菟麻呂及終子宛書簡（木菟麻呂と終子への書簡類。二人の交友関係を知るのに、大変貴重な資料である。）

②E31中井終子日記（明治23年(1890)7月から8月の記録。懐徳堂に限らず、ロシア正教会や梅花女学院に関わる記述を知ることが出来る貴重な資料である。）

③E128懐徳堂水哉館先哲遺事（西村天囚の『懐徳堂考』とは異なり、中井木菟麻呂の視点から著した懐徳堂の先儒に関する記述。懐徳堂最後の教授である並河寒泉から直接聞いた話などがまとめられている資料である。）

上記以外にも、竹山・履軒・寒泉・桐園・蕉園に関する資料が新田文庫には所蔵されている。

今後、更に詳細な調査を行うことで、更に懐徳堂、または中井家に関連する貴重資料が見出されるのではないかと思う。

懐徳堂文庫には、まだ手つかずの研究対象が多く存在している。調査・研究を行っていくことで、懐徳堂という学問所、また懐徳堂学派の思想が明らかになっていくと考えられる。その可能性を示すのものの一つが、この新田文庫資料ではないかと考える。今回の目録が、今後の懐徳堂研究への足場となれば幸いである。筆者自身も今後は、更に詳しい調査を続けていきたい。

【補足・訂正】

前稿の目録中、今回の調査により、数点の誤表記を確認した。その訂正と補足とを下に記す。

E176『質疑篇瑣語合刻』→E175。

E210『爾雅演』→E209。補足：この書の帙題箋及び表紙書き付けの題は『釈古演』である。

E216『天民遺言』→E126と同一書。

E224『大鏡註釈総目録』→E224『大鏡註釈』と同帙。

E248『中庸章句』→E275と同一の書。

【凡例】資料の並びについてはE番号に従う。

E番号/区分/その他の番号〔受入番号〕（付されていないものについては省略。）

資料名：資料名が不明なものについては、懐徳堂センターに所蔵のカードに表記されている資料名に従う。また、包紙に書かれているものと、図書館受入後に付された資料名とで異なる場合もあるが、より資料名として適切な方を選択した。資料名を付すにあたり、上記のような参考となる資料が無い場合は、原物そのものの形状などを資料名とする。

内容：帙・箱の有無も記す。

備考：上記以外について。特に無い場合は省略。

【目録】

E1/扁額4/278

資料名：**履軒筆華胥国門額**

内容：1箱 額1枚

備考：中井履軒手製とされる。「華胥国」と白墨で書されている。上辺に壁掛け用の紐が付されている。

E2/器物33/241

資料名：**履軒作竹置花生け**

内容：1箱 花器1点

備考：手桶型の竹製花生け。履軒手製とされる。箱書きは「天楽」。花器側面に「天楽」と金象嵌。

E3/器物32/240

資料名：**博山香炉**

内容：1箱1基

備考：履軒手製とされる。

E4/器物16

資料名：毛筆5枝

内容：毛筆5本・簾1垂

E5/器物30

資料名：**履軒先生御贈位記念盃**

内容：1箱1盞・紙片1枚

備考：表の箱書きに、天生の題で「酌言献之」。蓋の内側には「大正乙卯(1915)春」の天生識がある。盃には『枕上雑題』所収の詩が記載されている。また、「酔郷侯印」が摹刻されている。

E6/器物10/229

資料名：**黄銅印亀紐文曰懐徳堂遺編**

内容：1箱 印鑑1個

備考：箱は二重。箱書きを見ると、明治丙戌(1886)七月に作成されたものであることが分かる。

E7/器物11/230

資料名：**黄銅印亀紐文曰水哉館遺編**

内容：1箱 印鑑1個

備考：箱は二重。箱書きを見ると、明治丙戌(1886)七月に作成されたものであることが分かる。E6と同時期に作成されたものであろう。

E8/器物46

資料名：**伝家宝刀**

内容：1箱1口

備考：刀身は確認していないが、鞘と柄はプラスチック製である。

E9/器物48
資料名：笙
内容：1袋1管
備考：笙の中には型くずれ防止用の詰め物(袋と共布)が入っている。

E10/器物58
資料名：笠竹
内容：1式･包紙2枚

E11/器物28/236
資料名：陶製天楽楼酔歌器
内容：1点
備考：盃台。中井履軒手製とされる。タイトルは器に書き込まれており、中心に水哉館のマークが入っている。天明丁未(1787)の年に作成された器物である。

E12/器物29/237
資料名：孝明天皇御愛用若水御茶碗
内容：2個
備考：磁器。藍の絵付けで菊の紋が描かれている。

E13/器物12/231
資料名：菊紋陶器小盒子
内容：1箱1盞
備考：箱は二重木箱。磁器。藍の絵付けで菊の紋が描かれている。

E13/器物13/232
資料名：象牙童子根付
内容：1箱1点
備考：箱は二重木箱。

E13/器物14/233
資料名：金雕文鎮
内容：1箱 文鎮1個
備考：箱は二重木箱。

E14 二分の一・二分の二/器物9
資料名：漆器大印肉池（円形）・陶製中印肉池（角形）
内容：印泥2個
備考：漆器大印肉池は二分の一、陶製中印肉池が二分の二。

E15/器物31/239

資料名：竹山先生竹模様菓子器

内容：1箱1点

備考：漆器。竹山手製とされる。蓋付きの菓子器。

E16/器物15

資料名：蕉園先生四方竹矢立

内容：1箱1点

備考：竹製の矢立。側面に「衆皆易円卓然独方君子 舟之以観其行 蕉園主人」と彫り込まれている。

E17/器物51

資料名：錦破嚢

内容：1袋 弦7巻

備考：布袋の内側には木蒐麻呂が朱書した四言詩が残っている。

E18/器物57/248

資料名：和漢古代尺度

内容：1袋31本

E19/器物54

資料名：伝履軒先生愛用椅子

内容：1脚

E21/中井終子関係9/390

資料名：中井木蒐麻呂及終子宛書簡

内容：1箱27通（木蒐麻呂から終子宛て14通・程家檉から終子宛て4通・蒋智由から木蒐麻呂宛5通・蒋智由から終子宛て3通・鈕永建から終子宛て1通）・紙片3枚（程家檉との筆談記録）

備考：書簡は三種に分類され、それぞれに終子の紙片が副えられている。例えば、程家檉から終子宛て4通と蒋智由から木蒐麻呂宛5通とをまとめたものには「東京小川町時代明治三十五年ヨリ（終子廿六才）四十三年迄（三十四才迄）中国名士ヨリノ来信」、蒋智由から終子宛て3通と鈕永建から終子宛て1通、程家檉との筆談記録3枚をまとめたものには「蒋智由氏来信明治三十九年ヨリ四十三年迄（終子三〇才～三十四才）」、木蒐麻呂から終子に宛てた書簡のまとまりには「東京小川町時代兄氏旅行先ヨリノ来信明治廿九年ヨリ四十六年迄（終子廿才～三十一才）」とのメモが記されている。また、手紙一通一通ごとに、中身がどのような内容であるのか、簡単な終子のメモが書かれている。更に、箱の表に付箋が貼ってあり、「此ノ箱ノ内容ハ東京小川町ニ於テ一流ノ清国人ト交流セシ時ノ文筆ヨリ始マリ、後生地大阪ニ転ジテ梅花校ノ定年ヲ終ヘ、六十一才ノ賀ニ参与セシ時ニ終ル。」と書かれている。

E22/中井終子関係13

資料名：中井終子還暦関係書類

内容：1冊・3枚

備考：「御祝儀」と書かれた熨斗1枚(梅花の卒業生からのもの。)。還暦祝いへの礼状1枚(印刷物。昭和12(1937)年8月15日の日付。)。終子が、梅花に定年制が導入されたために昭和11年に退職し、還暦祝いとして祝儀を贈ろうと卒業生有志が発起人となって起こした文章1枚(昭和12年4月の日付。発起人の名前も列挙されている。)。「還暦祝寄贈金扣(昭和十二年五月)中井終子」1冊3葉仮綴じ(祝儀の届いた日付・金額・贈り主の氏名・住所・卒業年度が記されている。)。

E23/天生関係74

資料名：懐徳堂印存割付原稿

内容：3冊・包紙1枚

備考：包紙の表書きは、「昭和十九年(1944)九月九日調　印譜現行三冊　黄裳編」。おそらく『懐徳堂印存』の草稿であろう。印影をどのような順で並べていくかを記している。印影の読みが書かれているので、『懐徳堂印存』を見る際に参考となる。

E24/中井終子関係11

資料名：中井終子宛葉書

内容：74通

備考：終子が名簿を作成しようとしていたのが窺える資料。

E25/中井終子関係16

資料名：中井終子蒐集押葉

内容：1箱 押し葉25点と紙片(常陸大津)1枚・押し葉17点と紙片(京都編)1枚・押し葉9点と包紙1枚、紙片1枚・押し葉17点と包紙1枚、紙片1枚・「いちはつ、かきつばた、しょうぶ、あやめ」に関する紙片1枚・押し葉1点と紙片2枚・書簡1通(※押し葉の数え方は、葉数では無く、一包を一点と数えた)。

備考：書簡は、蒋智由からのもの。

押し葉だけでは無く、押し花も含んでいる。中でも特に紅葉の押し葉が多く残っている。終子は紅葉を特に好んでいたらしく、押し葉の中に書簡が1通残っているのも、紅葉に関する詩が詠まれているからである。終子が押し葉を好んでいたことは周知のことであったらしく、人から贈られたものも含まれている。押し葉を包んでいる包紙には、その押し葉の由来や蒐集した日付が記されている。

E26/中井終子関係10

資料名：**墨跡帖**

内容：1帖98通

備考：木蒐麻呂及び終子宛て書簡。終子宛への葉書が多数。

E28/記録60

資料名：**昭和二十五年度 第一函図書目録**

内容：1冊

備考：昭和24年(1949)より中井終子が記し始めた家蔵書のリストと思われる。表紙を含めて8葉。罫紙を使用。

E30/天生関係18

資料名：**中井木蒐麻呂備忘録**

内容：2冊・包紙1枚

備考：日めくり形式のカレンダーに木蒐麻呂が書き込みをしたもの。1冊は昭和12年(1937)の1月17日～20日、1月24日～2月18日、2月21日～3月8日、3月12日～17日、3月20日～25日、4月2日～7日、4月10日～17日、4月26日～6月13日、6月17日～7月16日、7月18日～8月3日、8月5日～7日、8月9日～13日、15日、17日。残り一冊は昭和11年か同16年の1月1日からの1年間と思われる。双方とも木蒐麻呂が係わっていた学校のことやロシア正教会に関することについての簡単な記述。日記代わりのような性質の資料と言える。

E31/中井終子関係1

資料名：**中井終子日記**

内容：1冊

備考：明治23年(1948)7月7日～8月24日。

E32/器物61/251

資料名：**天体図解附天体小図**

内容：13枚・包紙2枚

備考：中井履軒自筆と思われる。包紙には「履軒先生作」と書かれている他、内容物の題名が書かれている(天体小図以外)。「一 天体解説 ・ 二 八卦図解 ・ 三 黄赤二道見解総星図 ・ 四 二十八宿見解総星図 ・ 五 北極至赤道圏中分一半見界総星図 ・ 六 北極河漢星見界図 ・ 七 北極紫微垣見界星図 ・ 八 南極至赤道圏中分一半見界総星図 ・ 九 南極諸星垣見る界星図 ・ 十 南極河漢星見界図」。(※中黒は筆者による)

E33/器物55/247

資料名：**水哉館替紋**

内容：1枚

備考：型紙。

E34/マクリ42
資料名：往生院額面拓本
内容：拓本1枚・包紙1枚

E35/掛軸65
資料名：並河寒泉先生文稿
内容：1枚・包紙1枚
備考：包紙の表書きは「寒泉先生書」。

E36/記録70/322
資料名：旧懐徳堂平面図
内容：平面図3枚・包紙2枚
備考：包紙の一枚には「弘化以後懐徳堂平面図」と書き付け。

E37/中井終子関係8
資料名：中井木菟麻呂及終子宛書簡
内容：紙片2枚・封筒12枚
備考：封筒の中に書簡は入っていない。紙片2枚は木菟麻呂の手によるものであろう。消印から見て、昭和9年(1934)から同26年(1951)の間に送られてきたものであるのが分かる。

E38/掛軸62
資料名：中井柚園頭陀銘片 詩稿（「蛍火」）
内容：3枚・包紙1枚
備考：内容物3枚の内訳は以下の通り。1枚は「柚園先生筆蹟」と書かれたもの。1枚は柚園手写の『蛍火』詩稿。1枚は履軒の文を型紙にしたもの（「包括天下名山傾入頭陀嚢中林外半蓑秋雨渓邊一節春風」）。包紙は柚園が作成したものと思われる。

E39/掛軸63
資料名：加藤竹里先生詠草
内容：紙片3枚・包紙1枚

E40/掛軸37
資料名：履軒自筆零墨
内容：4枚・包紙1枚
備考：4枚とも履軒自筆と思われる。特に中の1枚は「姪巌晩日」と題が付けられ「明和五年(1930)十二月十八日」の日付と履軒の署名とが入っている。

E41/記録61
資料名：往生院額面献納受領証
内容：受領証1枚・包紙1枚
備考：中井木菟麻呂宛の受領証。大正10年(1921)5月の日付。

E42/未決2
資料名：道澄寺鐘銘題字
内容：題簽6枚・包紙1枚
備考：題簽には「道澄寺鐘銘」と印刷。

E43/書簡7
資料名：竹山書簡案文
内容：2枚
備考：和泉守に宛てて竹山が書こうとした書面の下書き。

E44/その他4
資料名：寒泉日記青写真
内容：青写真2枚
備考：木蒐麻呂命名に関する箇所。

E45/天生関係69
資料名：黄裳筆跡
内容：3点
備考：木蒐麻呂自筆の書。

E46/未決3
資料名：七経逢原題簽 秋萩帖題簽
内容：題簽2枚・包紙1枚

E47/書簡8
資料名：中井淵蔵(蕉園)宛書簡
内容：1通

E48/掛軸60
資料名：早野橘隧詩稿
内容：1枚
備考：「題太公望図」。早野橘隧自筆ではなく、後人が転写したものと思われる。

E49/掛軸59
資料名：中井碩果文編
内容：2枚
備考：碩果の印影がある。「天保三年(1832)壬辰仲夏」「天保癸巳六(1833)月七日」の日付が書かれている。

E50/掛軸6
資料名：甃菴遺稿
内容：1枚

E51/掛軸64
資料名：中井及泉詩稿
内容：3枚

E52/掛軸66
資料名：小荘信二行書幅
内容：3枚
備考：「離騒」からの引用。

E53/掛軸42/256
資料名：象図
内容：1箱1軸
備考：慶応2年(1866)に書かれた賛がある。賛は並河寒泉筆。賛の内容は以下の通り。「魁貌偉矣性寛而剛四蹄君子其奈横行 華翁」。

E54/その他10/296
資料名：五井蘭洲筆「朝顔の詞」書幅
内容：1枚

E56 十分の一/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：1幅
備考：「只在此山中雲深不知所」。

E56 十分の二/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：1幅
備考：「正其衣冠云々」。

E56 十分の三/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：1幅
備考：「勿謂今日不学而有来日」。

E56 十分の四/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：1幅

備考：「勿謂今日不学而有来日勿謂今年不学而有来年日」。

E56 十分の五/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：1幅
備考：「浮木魚」図。

E56 十分の六/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：双鉤5枚

E56 十分の七/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：1幅

E56 十分の八/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：1幅

E56 十分の九/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：2幅

E56 十分の十/掛軸70
資料名：諸家草稿類
内容：2幅
備考：内1枚は木蒐麻呂手書と思われる。

E109〔受入番号〕79CL00556
資料名：西岡集
内容：1帙1冊
備考：革島有尚が、明治32年(1899)10月5日の懐徳堂記念祭に参加。その日のことが切っ掛けになったのか、竹山手写の『西岡集』を縮刷影印した(百部を懐徳堂記念会に寄贈)。竹山の印影らしきものがあるが、これは影印した後、朱筆で謄写したものである。

E116/記録65/321〔受入番号〕79CL00537
資料名：重建水哉館意見
内容：1帙1冊
備考：中井天生撰、高橋五子筆写。巻末に明治26年(1893)7月23日に書写した旨が記されている。

E120/記録63/319〔受入番号〕79CL00536
資料名：重建懐徳堂意見
内容：1帙1冊
備考：中井天生撰、高橋五子筆写。巻末に明治26年(1893)7月19日に書写した旨が記されている。

E128/記録4/302〔受入番号〕79CL00534
資料名：懐徳堂水哉館先哲遺事
内容：1帙2冊
備考：天生自筆。中井竹山に始まり、並河寒泉、中井桐園までの遺事を記した書。書き終えた時期が明確に記されていないため、西村時彦『懐徳堂考』との先後関係は分からないが、おそらく『懐徳堂考』(上巻は明治43年(1910)、下巻は翌年発行)を書く際に西村が参考にしたのではないかと考えられている。天生が寒泉から直接聞いた話も書かれており、竹山から始まる懐徳堂学主及び預かり人について知る際に貴重な資料である。

E148〔受入番号〕79CL00590
資料名：履軒先生篇　語彙
内容：1帙1冊
備考：履軒自筆草稿本。天文・地理・築城・璧玉について書かれている。

E279
資料名：居諸録写真
内容：写真15枚
備考：書架に配架してある『居諸録』(E279/280)を撮影したもの。

E303〔受入番号〕79CL00659
資料名：画觸
内容：1帖・包紙1枚
備考：本草書。履軒自筆と思われる。『左九羅帖』で取り上げられている動植物と、ほぼ同種類のものについて、主に文章で説明を施しており、部分的には絵も添えられている。『懐徳堂事典』(湯浅邦弘編著、大阪大学出版会、2001年)「左九羅帖」の項に説明されているように、本来『左九羅帖』の付録であったと考えられる。

E319 二分の一/巻子8〔受入番号〕79CL00771
資料名：竹山先生青年書 白鹿洞掲示
内容：1通・包紙1枚
備考：藤〔不破〕文邦から中井雄衛宛て書簡。

E319 二分の二/巻子8〔受入番号〕79CL00771
資料名：竹山先生青年書 白鹿洞掲示
内容：巻子1巻・包紙1枚

E321/記録38/307〔受入番号〕79CL00781
資料名：竹山先生遺状
内容：1帙1枚・包紙1枚
備考：遺状を写真に撮り、紙に印刷したもの。カタログの一部らしい。

E324/書簡2/299〔受入番号〕79CL00770
資料名：甃菴先生母堂書簡
内容：巻子1巻・包紙1枚
備考：甃菴宛4通。中井はや宛1通。

E326 二分の一/マクリ26〔受入番号〕79CL00772
資料名：流水閑民書
内容：1枚・巻子1巻・包紙2枚
備考:流水閑民とは早野反堂子のことで、履軒の門人である。

E326 二分の二/マクリ26〔受入番号〕79CL00772
資料名：流水閑民書
内容：2枚・包紙1枚

E327/マクリ23〔受入番号〕79CL00773
資料名：天楽楼記墨拓本
内容：拓本1枚・包紙1枚
備考：「拓」の字は包紙には書かれていない。

E329〔受入番号〕79CL00787
資料名：非物篇
内容：1帙5冊
備考：版心に「懐徳堂」と入った用紙を使用。数名の手によって書写されたようである。

E332〔受入番号〕79CL00769
資料名：伊都乃与加多理
内容：巻子1巻・紙片1枚
備考：紙片1枚には、本器物が加藤竹里自筆ではないか、との記述がみられる。

E341/マクリ32/289〔受入番号〕79CL00776
資料名：桐園先生書
内容：1帙2枚・包紙1枚
備考：1枚は「観游」と桐園が題した書。

E342/器物50
資料名：七絃琴
内容：糸4束・包紙2枚
備考：三味線仕様の弦。

E354/未決5/326〔受入番号〕79CL00782
資料名：竹山先生習字手本 一～三
内容：1帙3綴
備考：『竹山先生習字手本』一（25枚、表紙を含めると27枚）二（88枚、表紙を含めて90枚）三（37枚、表紙を入れて39枚）。一は二文字の練習、二と三は四文字の練習。

E356/未決6/327〔受入番号〕79CL00782
資料名：竹山先生草行書手本
内容：1帙49枚・包紙1枚
備考：裏に通し番号が書かれている。その番号によると、元は74枚はあったようである。調査時点で、4・6・10・24・25・28・29・30・37・38・39・40・41・43・44・48・52・55・59・60・61・63・64・68・71が欠落。

E358/マクリ13/281
資料名：竹山先生書 并 遺稿西岡集
内容：1帙 双鉤2枚・包紙1枚
備考：帙題簽に書かれている「遺稿西岡集」は帙に含まれていない。

E359/マクリ20/282
資料名：履軒先生遺筆
内容：1帙 双鉤8枚・拓本1枚（観心寺石灯籠拓本）・水墨画2枚・包紙1枚

E360/マクリ21/283
資料名：酔郷五瑞 並 朝陽館書
内容：1帙 双鉤6枚・器物図3枚・包紙1枚
備考：「酔郷五瑞」3枚、「朝陽館」3枚。

E361/マクリ28/288
資料名：蕉園先生書
内容：1帙 双鉤3枚・包紙1枚

E362/マクリ31/288
資料名：桐園先生書
内容：1帙 双鉤2枚・包紙1枚
備考：包紙に「双鉤3枚」とあるが、調査時点では2枚のみ。

E363/マクリ30/287
資料名：北郭野人双鉤
内容：1帙 双鉤1枚

E364/マクリ38/290
資料名：並河寒泉双鉤
内容：1帙 双鉤1枚

E365/その他11/297〔受入番号〕79CL00774
資料名：谷神堂記
内容：1帙1枚
備考：帙題簽と中身の表書きには『先人遺筆』と書されている。書かれている文章が、途中で終わっているようであり、おそらく数枚に渡って書された内の1枚であろう。

E366/マクリ3/279〔受入番号〕79CL00775
資料名：雪山人之書双鉤
内容：1帙 双鉤11枚と双鉤23枚の2組・紙片1枚・包紙1枚・厚紙1枚
備考：甃菴の付言が書かれた双鉤が含まれている。紙片には「北島雪山 浪華中井懐徳堂」と書かれている。

E367/未決4/325〔受入番号〕79CL00783
資料名：竹山先生背誦
内容：1帙48枚・紙片1枚・包紙2枚
備考：終子自筆の紙片によると、元は55枚あったようであるが、昭和19年(1944)1月16日に枚数を調査した際に、既に元の数より9枚欠落した、46枚になっていたことが分かる。調査時点では48枚。

E374/天生関係57/371
資料名：中井木菟麻呂草稿断片
内容：1帙25枚・1綴(2枚)
備考：木菟麻呂が入信していたロシア正教会に関する記述が含まれている。また、聖書を翻訳しようとした形跡や、自身の解釈などを記した草稿もある。

E375/帖3/268〔受入番号〕79CL00780

資料名：**黄裳撰碑文拓本**

内容：89枚（詳細は備考を参照）

備考：「黄裳撰碑文拓本 計三十七在中 妹終子編輯」（拓本の目録）1綴（3枚）。
「建碑記念写真在中」封筒入り、写真1枚。
「大主教ニコライ師墓碑文」の双鉤1枚と拓本1枚。
「掌院アナトリイ師記念刻文」拓本1枚。
「辞世」拓本1枚。
「司祭小杉雅枝神父墓碑文」拓本2枚。
「小松神父墓碑文」拓本1枚。
「中井桐園家族之墓碑」拓本4枚。
「中井春子之墓碑」拓本2枚。
「小野荘五郎長司祭墓碑文」拓本4枚。
「長司祭沢辺老神父墓碑」拓本1枚。
「沢辺アレキセイ神父墓（沢辺悌太郎神父墓碑文）」拓本1枚。
「山田栄治墓」拓本4枚。
「安彦五子女史墓」拓本3枚。
「司祭加藤雄之助墓碑文」拓本2枚。
「萱野春陽先生墓碑文」拓本1枚。
「顕忠碑」拓本1枚。
「烈士喜剣碑」拓本2枚、関係印刷物1枚。
「笹川神父墓表」拓本2枚。
「懐徳堂旧趾碑記」拓本2枚。
「大越文五郎墓碑文」拓本2枚。
「山田アナスタシヤ墓碑文」拓本3枚。
「尾方長栄以後之墓」拓本3枚。
「閑雲牧島先生寿碑文」拓本1枚。
「増田常蔵墓碑文」拓本1枚。
「並河立齋先生墓碑文」拓本2枚。
「栗原文和墓碑文」拓本4枚。
「青山薫碑文」拓本1枚。
「加藤伊右エ門墓碑文」拓本3枚。
「神僕保羅大川常吉之墓」草稿1枚。
「喜多川イリナ墓碑」拓本1枚。
「京都望月久五郎墓碑文」拓本8枚。
「土屋利三郎墓碑文」拓本1枚。
「萩原澄子墓」拓本2枚。
「萱野秀子媼墓碑銘」拓本2枚。
「伊藤譲策墓碑文」拓本1枚。
「戦病死者星由之助墓」拓本1枚。
「辞世」拓本1枚。
「有竹勝吉之墓」拓本1枚。
「高屋神父墓碑文」拓本1枚。
「戦死者大原望墓碑文」拓本4枚。
「沼辺愛之輔墓碑文」拓本2枚。
「麹町聖堂移転祈念碑文」拓本2枚。
「鶴峡初鹿野先生墓碑文」拓本1枚。

E380 二分の一/記録56〔受入番号〕79CL00764
資料名：祭詞　祭文
内容：3通（祭詞1通、祭文2通）
備考：3通とも各々包紙有り。「履軒先生贈位祭詞 大正四年(1915)三月三十日」、「履軒先生贈位祭文　大正三年(1914)十一月十九日」、「竹山先生贈位祭文　明治四十五年(1912)三月二十三日」。

E380 二分の二/記録56〔受入番号〕79CL00764
資料名：位記
内容：1箱3通・包紙2枚
備考：善太〔従四位 明治四十五年二月二十六日〕、徳二〔従四位 大正三年十一月十九日〕、忠蔵〔正五位 大正六年十一月十七日〕。

E381/器物59/250
資料名：扶桑木板
内容：1箱1枚
備考：3つに断裂。

E383/その他3
資料名：華胥国物語版木
内容：1箱 版木10枚
備考：箱には墨筆で「華胥国物語 中井氏蔵」と書き付け。

【未見資料】
〔目録カードに記載されている資料名等〕
E20/その他2
資料名：紫烟帖版木

E27/中井終子関係12
資料名：追悼画集

E29/天生関係7
資料名：中井木菟麻呂日記覚書

E55/掛軸21
資料名：竹山墨跡

E328/巻子12〔受入番号〕79CL00768
資料名：破腹巻之記
内容：1箱1巻

E355/マクリ9〔受入番号〕79CL00782
資料名：竹山先生墨本手本四箴
内容：6枚

E382/扁額3
資料名：中井履軒書 黄裳斎記
内容：1点

〔上記以外〕
E177・E193・E255・E276・E314

（本研究科博士後期課程）